

- 社会・地域とのコミュニケーション
- 社員の環境意識向上

企業市民としての 社会・地域貢献活動

当社は企業市民として、社会や地域の課題解決に向けてさまざまな活動を行っています。ここでは、地域の皆さまとの大切なコミュニケーションでもある社会・地域貢献活動や、社員個人の環境意識向上を目的とするエコポイント制度「Me-pon(ミーボン)」の活用、そして国内外のMAEDAグループ各社における社会・地域貢献活動についてご紹介します。

1 社会・地域とのコミュニケーション

国内外各地で工事を請け負い、その地域に根差して仕事をする建設業では、地域の皆さまとの信頼関係づくりがとても大切です。当社は、地域住民・企業市民の一員であるという意識を持ち、大切なコミュニケーションの一つとして積極的に社会・地域貢献活動に取り組んでいます。

社会・地域貢献活動に関する社内表彰

各現場や支店、個人が行った社会貢献活動は随時データベースに登録され、イントラネットを通じて全社で情報を共有しています。2016年度は、各現場から670件の活動が登録されました。なかでも特に優れた活動は、「社会・地域貢献活動奨励賞」として、各支店や社長表彰にて取り組みを評価、周知し、さらに積極的・自発的な活動が活発化するように取り組んでいます。

現場での社会貢献活動

台風や集中豪雨時における緊急支援活動に尽力

【東北支店 最上小国川流水型ダム作業所】

2016年は各地で集中豪雨による被害が発生しました。本作業所のある山形県最上町でも7月、8月に河川水位が水防団の待機基準を超えたため、最上町との災害協定に基づき出動しました。降雨が続くなか、職員が昼夜を問わずポンプによる排水作業を行い、地域の安全のため尽力しました。地元住民の方々には、水防団より早い出動に評価を頂いています。

こうした地域の被害軽減に貢献した取り組みが、最上町の善行表彰を受賞することになり、11月に行われた定例表彰式では感謝状を頂きました。



内水氾濫した地区の水をポンプで排水

農業用水引き込み配管の補修

【北陸支店 上結束作業所】

本作業所は、新潟県中魚沼郡で水力発電所の工事を行っています。現場は豪雪地帯であり、冬場は現場で発生した伐採材を薪として地元住民にお譲りしたり、小学校花壇の材料等に役立ててもらったりなど、普段から地元と良好なコミュニケーションを築いています。

公園の駐車場入り口に埋設されている農業用水の引き込み管が破損していた際は、駐車場入口が、漏れ出た水で泥濁化していたため配管の補修を行い砕石を敷きました。修復後は農業用水の供給がスムーズになり、地元の方々からお礼の言葉を頂きました。



農業用水引き込み配管の補修

不法投棄の多い道路を重点的に定期清掃

【中部支店 上野トンネル作業所】

本作業所では、定期的に地域の美化活動に取り組んでおり、雑草が人の背丈以上に伸びてしまい見通しの悪くなる一般道脇の草刈りや、道路の清掃活動を行っています。工事車両が通る高山農免道路では、家庭の粗大ごみや農業用の排水管などの不法投棄も多く住民の方々も困っている状況です。道路清掃の際は、放置されたゴミを都度回収しています。また、雪深くなる前の11月には、藪に落ちているゴミも含め、現場から約1.8km区間の清掃活動を実施するなど、地域の美化活動に積極的に取り組んでいます。

多くの見学者に水道水源工事の重要性をアピール

【北海道支店 豊平川シールド作業所】

本作業所は、札幌市の水道水源の98%をまかなう豊平川において、自然湧水に含まれる重金属の混入を低減するとともに、災害発生時にも良質な水が確保できるようにするためのバイパス(う回路作り)工事を実施しています。

身近な生活水に関わる工事であり、市民の方々からの注目度も高く、2016年度は延べ850名の見学者を受け入れました。説明パネルの設置や、説明資料にアニメーションを取り入れ工夫するなど、大人から子どもまで、見学に訪れた方々に水道水源工事の重要性を分かりやすく伝えられるよう、努めています。

夏休みの親子見学会で現場でしかできない体験を

【北陸支店 金沢処分場作業所】

本作業所は、家庭ごみ等の一般廃棄物の埋め立て地となる土地の造成工事を行っています。夏休みの時期に開催した親子見学会では、現場の概要説明だけでなく子どもたちに現場ならではの体験を楽しんでもらおうと、街中ではなかなか見ることのできない重ダンプなどの大型重機への試乗体験や、航空写真の撮影などで使用しているドローンの飛行を披露しました。

重機の試乗では、エンジンはかかっていませんが、レバーを動かしてみる子どももいたり、保護者も含め非常に喜んでいる様子が印象的でした。当現場の体験を通じて、本工事や建設業に興味を持っていただけることを励みに、現場見学会の開催を行っています。



沿道清掃活動における成果



工事資材を運ぶインクラインに乗り喜ぶ子どもたち



大型重機への試乗体験

グループ会社の社会貢献活動

ホテルならではの取り組みで練馬の農業を応援

【株式会社ジェイシティ ホテルカデンツァ光が丘】

ホテルカデンツァ光が丘(東京都練馬区)は、区が取り組んでいる地産地消に賛同し、地元農家と協力してホテルならではの取り組みを行っています。区の特産品である練馬大根をはじめ、地元野菜や江戸東京野菜を使ったメニューの開発や、練馬産はちみつを使用した焼き菓子の商品化協力を積極的に行い、多数のメディアにも取り上げられました。また、練馬生まれ練馬育ちのお客さまの婚礼の際には、地元食材を使ったスペシャルメニューをご提案し、大変喜んでいただきました。

今後も事業を通じて地域住民の皆さま、農協、自治体と連携した取り組みを実施し、地域の活性化に貢献していきます。



美味しい野菜を提供くださる地元農家の方と一緒に

国外における社会貢献活動

【香港支店】 チャリティーウォークイベントに参加

2016年5月、職員とその家族で「Walk for Water 2016」に参加しました。このイベントは、水道設備のない中国僻地に住む人々が、川の水を担ぎ長く険しい家路を往復している苦勞を擬似体験するもので、当日は約2,600名が4.5リットルの水を背負って海辺を3km歩きました。参加費および募金は僻地の人々のための貯水タンクの購入・設置費用に充てられます。当社の募金により、中国甘肅省の貧しい農村に暮らす一家(4人)に1台のタンクが設置されました。



有志の職員と家族8名で参加

【国際支店】 ホーチミン日本人学校の現場見学会を開催

2016年11月、ベトナムの「ホーチミン地下鉄作業所」にて、日本人学校の小学生52名と先生を対象に現場見学会を開催しました。ベトナム初の地下鉄工事に対する生徒たちの関心は高く、事務所にある駅舎やシールドマシンの模型を見た後、駅舎の施工現場を間近で見学してもらいました。

海外で暮らす小学生にとって、日本とベトナムの友好の象徴である本工事を誇りに感じてもらう、良い機会となりました。



児童に熱く説明する職員

【タイマエダ】 小学校にトイレを寄贈

2016年9月、日系企業も多く入居するバンコク南東部アマタシティの小学校にて、当社を含む在タイ企業3社で協力し、トイレを設置する社会貢献活動を行いました。この小学校では教員数53名、生徒数1,168名という大人数にもかかわらず、トイレが12部屋と不足していました。材料費、電気・設備費、労務費を各社で負担し、約半年をかけて活動を行い、完成時には立派なセレモニーにおいて感謝状を頂きました。



完成セレモニーの様子

スリランカへの国際緊急援助隊に参加

2017年4月、スリランカ最大都市コロombo郊外の廃棄物処分場にてごみ山が崩壊し、死者32名、約1,800人が影響を受ける大災害が発生しました。日本政府が国際緊急援助隊の派遣を決定し、当社には環境省を通じて専門家派遣の要請があり、事業戦略本部の職員が援助隊の一員(廃棄物地盤工学の専門家)として現地にて活動を行いました。

現地では、急速な都市化に伴う廃棄物の急増で、軟弱粘土層の上に50mに達するほどのごみが積み上げられています。援助隊は現地調査や技術的な助言、今後の安全や警報体制、3Rといった対策をまとめ、スリランカ大統領に活動を報告しました。異文化、異分野専門家との交流を通じ、参加した職員にとっても大変貴重な機会となりました。



現地視察する川井リーダー(国際緊急援助隊)

震災復興支援に関する活動

東北復興支援

2016年度の東北復興ボランティアは、東北支店や大槌町、陸前高田市近隣現場の社員が中心となり、「陸前高田市うごく七夕まつり」「大槌まつり」「NPO法人桜ライン311の植樹祭」に参加しました（2011年からの累計実施回数47回、累計参加者数約670人）。

「陸前高田市うごく七夕まつり」は、被災して離れて過ごす人たちにとって、「この時だけは皆に会える」という地域が一つになる大切な祭りであり、地元の熱い想いを感じます。2011年から支援を続ける川原地区の方々とは、ボランティアを通じ、社員と地元の方のつながりも生まれました。当社は引き続き、細くとも長い支援を続けていきます。



2011年から支援している「川原祭組」の山車

熊本復興支援

●一時避難場所として現場を開放

【九州支店 菊池市庁舎作業所／菊池市生涯学習センター作業所】

熊本地震で大きな被害を受けた地区の一つ菊池市では、「菊池市庁舎作業所」「菊池市生涯学習センター作業所」が施工中でした。現場では、地震発生直後から、一時避難場所として現場事務所や駐車場を開放し、支店や他現場と連携して救援物資の運搬・供給を行った他、地元高校の建物点検、中学校3校の点検、市役所の天井ルーバーの補強等を行い、地域の復旧ために尽力しました。



一時避難所として現場を開放

●義援金の寄付

熊本地震で被災された方々の支援として、全職員ならびに協力会社から寄付を募り浄財総額700万円が集まりました。寄付金は、熊本県他6市町および1金融機関を通じて被災された方々にお届けしました。8月には前田社長が現地を訪れ、地元首長に直接義援金をお渡ししました。

●建築営業部の有志でボランティアに参加

2016年5月、関西・中国・九州支店の建築営業部所属の職員有志15名が、営業会議で九州に集まった機会を利用しボランティア活動に参加しました。熊本市のボランティアセンターに赴き、県内外のボランティア500名とともに、地震後に水位が下がり底が露出してしまった水前寺公園にある池の大掃除を行いました。被害の様子を実際に目の当たりにし、改めて支援の大切さを実感しました。



建築営業部有志のボランティア活動

九州支店 「熊本地震報告書」の制作

九州支店（管理部）では、今回の熊本地震における災害の態様や対応状況、今後の課題を忘れることのないよう、「熊本地震報告書」を作成し全国の本・支店に配布しました。本編100ページ余りに及ぶ報告書には、地震発生時の初動体制やお客さまの対応に関する記録だけでなく、繰り返す激しい揺れのなか、昼夜を問わず必死に復旧対応に当たった職員や、後方支援のために物資調達や輸送に尽力した職員らの、それぞれの働きと声記録されています。

本報告書は、こうした災害発生時に、現場、土建本部、本支店の内勤者、それぞれに求められる役割やできることを改めて考え、全社の緊急対策に備えるうえで大いに役立つ冊子となっています。



NPO法人等と協働した環境保全活動

当社は、環境保全と同時に職員・家族の環境意識向上を目的に、全国のNPO法人等の諸団体と協働し、各地で環境活動を実施しています。

MAEDAの森

MAEDAの森 佐久(長野県)では、1期目の5年間を通じ、森が持つ役割とその重要性、木々の成長にかかる時間を肌で感じた社員から継続を望む声があがったため、その声を受けて、2016年4月、佐久市と2期目の契約を結びました。2016年11月には、NPO法人森のライフスタイル研究所、ならびに地元の皆さまとともに植林を行いました。

なお、MAEDAの森 たかもり(熊本県)は、2016年4月に発生した熊本地震の影響により契約更新が遅れたものの、引き続き森づくりを行っていく予定です。



タイマエダにおける環境保全活動

タイマエダでは、2016年2月、公益財団法人オイスカの補助のもと、ローカルスタッフ、日本人スタッフ計16名がタイ北部 チェンライ県にある小学校を訪れ、地元の小学生や村民の皆さまとともに、主に焼畑による山火事発生時の防火対策を目的とした、ため池作りを行いました。

タイでの活動も4年目となり、現在はリーダー的な役割を担うローカルスタッフが育っています。いずれは、活動内容についても検討できるレベルになることを期待しています。

マエダベトナムにおける森林復旧活動支援

マエダベトナムでは、枯葉剤によって枯死した森林の復旧活動に取り組むNGO Viet Nature Conservationを支援しています。

ベトナムとラオスの国境近くに位置するクアンチ省は、ベトナム戦争で大量の枯葉剤が散布された地域です。木々は枯れ表土が雨等で流出し、現在は雑草に覆われています。その一帯は生物多様性に乏しく、森林からの恵みも決して多くはありません。

本プロジェクトは、木材の生成と土壌改良を目的に、まずは成長の早いアカシアを植樹し、その後、徐々に在来種を植樹しながら本来の森の姿に戻していく計画です。いずれは、現地での植樹活動等を実践することも検討しています。

2 MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用

MAEDAエコポイント制度「Me-pon(ミーポン)」は、社員と家族の環境活動=エコアクションを応援するしくみです。「家族と」「仲間と」「楽しく」をキーワードに、エコアクションが社員の生活に定着することを目指しています。

Me-ponの目的

Me-ponは、当社の社員と家族を対象に、日常生活における自主的、かつ積極的な環境活動を支援する、当社独自のしくみです。社員や家族が、エコアクションを実践するとポイントが貯まり、「エコ」をキーワードとした商品に交換することができます。

当社では、社員の環境活動に関する指標を、「社員に対する付与ポイント数(社員と家族が活動によって得るエコポイント)」と「商品への交換ポイント数」としています。これらのポイント数が増えれば増えるほど、社員と家族の環境活動が活発化していると考えています。

再度一から参加希望者を募り、2017年3月末時点、1,768名の社員(対象社員3,522名中34%)が参加しています。

2016年12月にはより手軽に参加できるよう、モバイルサイトもオープンしました。



コンテンツは
順次拡大していく
予定です

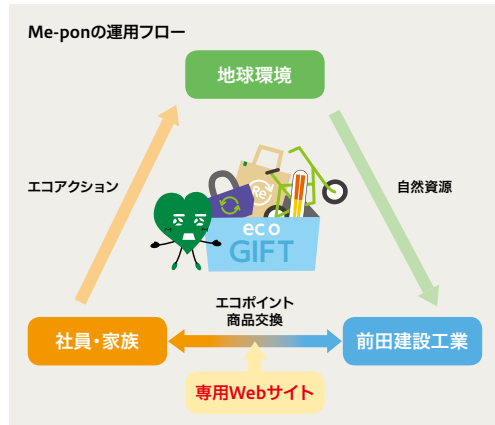


Me-ponのしくみと運用フロー

ポイント付与対象となるエコアクションは、日々取り組めるものからイベント形式のものまでさまざまです。例えば、毎月の電気や水道等の使用量を入力し、自分が日々の生活で排出したCO₂の量が認識できる「環境家計簿」や、各地域で開催される植樹や海外清掃等の環境ボランティア、自然や生きものに触れる環境教育イベントなどがその対象です。付与ポイント数は活動内容や活動時間などにより、個別に設定されます。

貯まったポイントは自転車やコンポストなどのエコに関する商品の他、東北ならびに熊本復興支援に関する商品、人間ドックの受診補助、休暇等に交換が可能です。社員や家族が注文した商品の梱包、発送業務は社会福祉法人東京コロニー（コロニー中野）に委託しています。

エコアクションの登録・申請、ポイントの確認、商品への交換はMe-pon専用ウェブサイト内で行うことができ、家庭からでもアクセスが可能です。



【活動報告】「生物多様性クイズ」を実施

当社では、2010年に定められた「生物多様性に関する新戦略計画（愛知目標）」達成に向けて、社員や家族の生物多様性に関する知識や興味を向上させるべく、「生物多様性クイズ」を実施しました。

出題されるクイズは、全国のMe-pon推進担当者（以下、Me-ponガール）が書籍やウェブサイトなどから、「地域性が感じられるもの」「知識として知っておいた方がいいもの」などをピックアップして作成しました。このクイズは25日間毎日出題され、回答数、正解数によってボーナスポイントが付くしくみとしました。また、初の試みとして、動画による出題も盛り込みました。

最終的にはMe-pon参加者のうち715名がこのクイズに参加、全問正解者が13名という結果になりました。参加者からは「クイズに正解したくていろいろ調べたが、生物多様性への新たな発見があって面白かった」「あんなに有名な動物が絶滅危惧種なんだと初めて知った」など、いろいろな意見が寄せられました。

【活動報告】「今週のエコクイズ」を社員から募集

「今週のエコクイズ」は、毎週ポイントと知識が増えることで、参加者から非常に人気の高いコーナーです。2017年4月からは、社員や家族が考案したクイズを毎週出題しています。

クイズの募集にあたっては、「出典がはっきりしている」「個人的な意見が反映されていない」「書籍、事典、ウェブサイト等を活用すれば正解が導き出せる」、さらに「参加者から問い合わせがあった場合は、出題者が責任を持って回答する」などの条件を付けましたが、1年分（52問）をはるかに超える応募があり、Me-ponガール全員で問題の精査を行いました。

Me-ponリニューアル時に掲げた「参加者と事務局の双方向コミュニケーション」の一つとして、来年度も実施する予定です。

ポイント交換メニュー「電子マネー及び寄付」にて集まった寄付金を贈呈

ポイント交換メニュー「電子マネー及び寄付」は、500ポイントのうち350ポイントを電子マネーに、150ポイントを社会的課題の解決に取り組む3つのNPO、NGO等に寄付するものです。

寄付先についてはMe-ponガールによるヒアリングや協議の結果、「地球環境を守る」「社会課題解決」「子どもたちを守る」の3カテゴリー、計7団体を選定しました。

2016年12月、メニュー開設後初めてのポイント交換が行われ、参加者から寄せられた寄付金は、参加者やMe-ponガールが直接、各団体にお届けしました。

決して大きな金額ではありませんが、「社会を少しでも良くするために役立ててほしい」という社員の想いが、各団体の皆さまに伝わっていることを願っています。



寄付先の一つ、喜多方市グリーンツーリズムサポートセンターの皆さまと喜多方グリーンツーリズムサポートセンター

<http://www.kitakata-gt.jp/>